

廃棄物処理対策研究事業 中間評価 評価結果

研究課題名	代表研究者	総合評価	学術的 必要性	社会的 必要性	目標の 達成度	計画の 妥当性	継続 能力	補助の 必要性
循環資源・廃棄物中の有機臭素化合物およびその代謝物管理のためのバイオアッセイ／モニタリング手法の開発	国立環境研究所 滝上 英孝	65.9	58.0	62.9	58.0	61.0	62.0	62.2
（研究概要）研究概要及びこれまでに得られた研究成果を400字以内で記入 Ah レセプター結合アッセイで検出できるダイオキシン様作用に加えて、多様な代謝物を生成する可能性のある臭素化合物の別の毒性をモニタリングすべく、ヒト transthyretin (TTR) 結合アッセイを導入した。また、難燃剤代謝物の標準品合成、分析手法の検討は、環境変換や生体内変換を受けた未知代謝物の検索や同定を進める上で有用な知見を与えられと考えられた。臭素化合物のヒト生体曝露評価やマイクロアレイによる毒性評価は、PCB や塩素化ダイオキシン類を対照としながら有意義な情報集積が可能であると考えられた。物質循環・廃棄過程における排出実態調査は、同時に有機臭素化合物の分解、制御性について評価、考察するものであり、ごみ破碎圧縮過程では粒子態成分の除去が排ガス中の有機臭素化合物制御につながる事が明らかとなった。このことは作業環境や生活環境における難燃剤曝露を抑制するための知見としても重要と考えられた。 （評価コメント） ● 有機臭素化合物について、総合的、着実な研究進歩が見られる。 ● 発生プロセスも課題として重きを置いて欲しい。 ● 計画、成果、プロセスとも明確。 ● 社会的に有益な知見が得られる研究である。 ● かなり広範囲の研究テーマになっているが、焦点を絞る方向で1つ1つ確実な知見を積み上げてほしい。								

注）評価コメントについては、研究課題代表者が、総合評価を評価者全体の評価結果として捉えた上で、すべての評価コメントの反映を目指すのではなく、各コメントの中で今後活かすべき重要な指摘や示唆が何かを吟味・判断の上、今後の研究計画の見直し等に活用することを期待する。